資料２－１

千葉市基本計画（原案）総論第４章～第５章に対する委員からのご意見
（計画の方向性や構成などに関するご意見）

No.	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員
1	第4章			39	全体		基本方針について、多様な主体との連携が重要であることに異論はないが、多様な主体との連携の“主体性”をどのように高めていくかが難しいと感じる。 「多様な主体との連携」という場合に、他人事とせず、「自分事」としてイメージさせる文言の工夫が必要ではないか。 例えば、千葉市民の矜持として、「みんなの「私」で共有し、取り組む計画」などというイメージ。		菊地委員
2	第4章	1		40	全体		「みんなが輝く　都市と自然が織りなす・ちばし」を計画の冒頭で記載することで、読み手に優先順位が高い言葉として意識付けをしてはどうか。 例）第１章　はじめに この「千葉市基本計画」（以下本計画）という。）は「みんなが輝く都市と自然が織りなす・ちばし」をコンセプトに、１０年、２０年後の～・・・」 また、「ちばし」と平仮名では幼稚な印象を受けるため、理由を記載すべきではないか。	現状の記述では、「みんなが輝く　都市と自然が織りなす・ちばし」が散漫な印象を受け、記憶に残らない。 また、「ちばし」の表記について、世界とつながる　多様性、インクルーシブの視点では、ひらがなよりも「CHIBA」の方がふさわしいのではないか。 なお、第４章３　目指すべき都市構造に掲げる都市構造の将来像「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク～下総台地の緑風、東京湾の浜辺、人々が行き交う“ちば”に住まう～」でも同様の意見である。	若狭委員
3	第4章	1		40	標語	「みんなが輝く　都市と自然が織りなす・ちばし」	「ちばし」とひらがなで使った意味と事例は何か。		中島委員
4	第4章	2	2	41	4ポツ目	・そこで、本市ならではの利便性の高さにより生み出される時間のゆとりと、身近な海辺や内陸部の豊かな自然が生み出す空間のゆとりを最大限に活かしつつ、テクノロジーの活用による、多様な主体とともに・・・（略）活力のあるまちの実現に挑戦します	文章が長いので、内容によって文章を分けるのも一考ではないか。 また、「時間や空間のゆとり」は、市民のWell―beingや学習活動と関連する。「時間や空間のゆとり」によって「心身、社会的に健康な市民生活を創出する」などの視点が必要と思われる。	前回の議論で教育、福祉の視点が重要との意見があった。 市民生活の豊かさについて言及がもっとあっても良いと思われる。 成人教育理論に「マージン理論」というものがあり、マージン（余裕、ゆとり）が学習活動を規定するとされる。	岩崎委員
5	第4章	2	3	42	4ポツ目	世界とつながる、多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり	市民の主体性や市と市民とのパートナシップについての言及が見られない。 「市民との対話を通じ」などの表現がどこかにあると良いのではないか。	市と市民との関係性についての言及が少ない。	岩崎委員
6	第4章	3	2	45	都市構造の将来像	千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク	ちば共創都市圏や、総務省の連携中枢都市圏構想との関連も想起されるが、周辺自治体も含めた計画は策定されているのか。		中島委員
7	第4章	4		50	全体		第3章の将来の人口推計などでは区別の推計が掲載されていないが、50ページ以降では現行の6区体制を前提にしているとの理解でよいか。 一層の都市内分権や行政区の再編（他の政令市では実際に議論となっており、行政区の増減や区割り線引きの引き直しなど多様な選択肢が想定される）などの可能性や検討について触れる必要がないのか、確認したい。		菊地委員

千葉市基本計画（原案）総論第４章～第５章に対する委員からのご意見
（計画の方向性や構成などに関するご意見）

No.	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員
8	第4章	4		50	2行目	本市の６つの区が有する特徴を改めて整理するとともに、これらを最大限に活かし、伸ばすことにより、わたしたちが目指すべき将来像を明らかにし、魅力と活力ある区づくりを推進します。（略）	他の政令市の状況を存じ上げないが、区の魅力を向上していくには、区役所の機能やリソースを拡充する必要があると考えるため、そのような記述が必要ではないか。		中島委員
9	第4章	4		51	全体		内陸部のバスや車での移動がメインになるエリアを、単に「川辺に親しむエリア」、「緑と農に親しむエリア」とするのではなく、そこに居住する高齢者向けに、交通、あるいはそれをカバーするサービスの提供（移動スーパー、訪問医療、定期的な見守り等）を検討し、盛り込んだ方が良いのではないか。	①この基本計画が終了する頃、恐らく私達審議委員の大半が「高齢者」になっている。今具体的に思いつかなくても、これをやっておくと、いずれ我々自身に役立ち、且つ、その頃大人になっている今の子ども世代に余計な負担をかけずにすむのではないか。 ②今回の計画期間中に SDGs の達成期限である2030年を迎えるため、「誰一人取り残さない」という観点から、たとえ居住者が少数であったしても、押さえておきたい。 また、 先を見越して計画に盛り込むことで、将来的にこのエリアが過疎化し、自然を保全する人がいなくなるということも防げる。	角田委員
10	第4章	4	5	60	①主な特徴 6ポツ目	・面積あたりの住宅地価格（令和元年〔２０１９年〕時点：６．６万円／㎡）が６区中最も安価な立地環境を活かし～住空間のゆとりに恵まれた環境にあると言えます。	住空間のゆとりを維持していくためには、建蔽率、敷地面積の下限を制限することが必要と考える。		中島委員
11	第4章	5		64	3ポツ目	・そのため、既存の公共私の役割分担を不断に見直しながら、多様な地域の担い手の相互連携を強化・促進し、みんなでまちづくりを進めていきます。	多様な担い手を増やすため、不断の取り組みが必要と考える。 千葉市には市民活動支援センターが中央区にしかなく、県内の他市と比べても先進的な取り組みとは言えないと思われる。 区ごとの特色を発揮する面からも、各区への拡充を期待する。		中島委員
12	第4章	5		64	6ポツ目	・加えて、圏域の持つ特徴や多様性を活かしながら、独自のライフスタイルを提案し、圏域全体の活力向上を推進します。	二拠点生活が話題となっているため、圏域での二拠点生活の推進を掲げてはどうか。		中島委員
13	第5章	2		65	2パラ目	本計画では、同計画に基づく実施計画の終了時に政策評価を行います。	政策評価は終了時ではなく、次の実施計画策定時に中間の政策評価に基づき策定できるようにするべきではないか。		中島委員
14	第5章	2		65	3パラ目	これに加え、実施計画の進捗管理を毎年度行い、取組みに係る課題の抽出及び改善を不断に図ります。	同様に、年度ごとに行っていては翌年度の対応が後手となります。中間管理が必要と考えます。		中島委員